

平成28年度

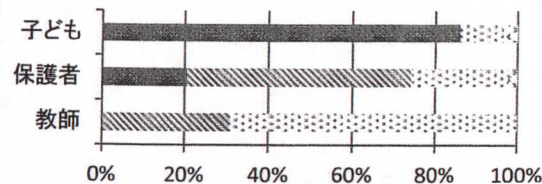
平成29年3月23日

# 南太秦だより (後期特別号)

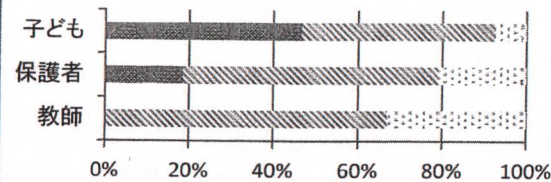
～学校評価について～

後期の児童評価・保護者評価をまとめました。グラフの左から(A)そう思う (B)どちらかと言えばそう思う (C)どちらかといえば思わない (D)思わない、の割合を表しています。

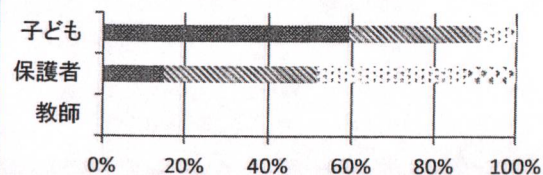
## 1. 進んであいさつをしている



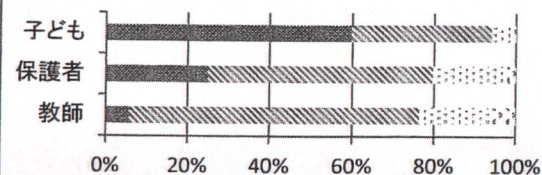
## 2. 思いやりのある話し方



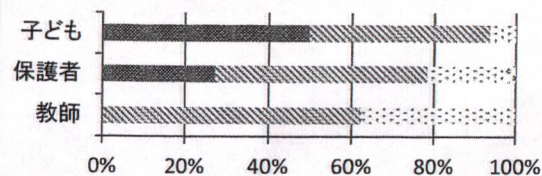
## 3. 意欲的に家庭学習をしている



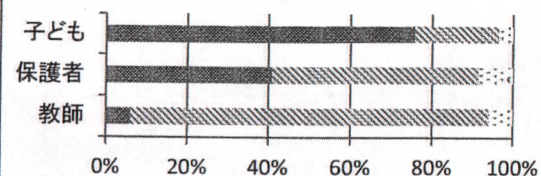
## 4. 授業を理解している



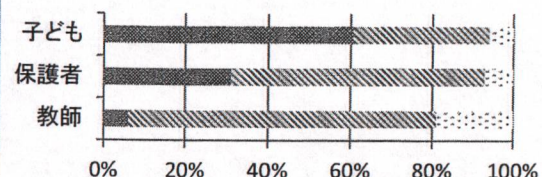
## 5. 基礎学力がついている



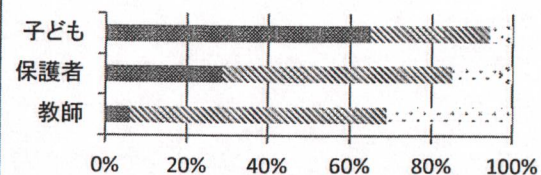
## 6. いじめや仲間はずれなく仲良し



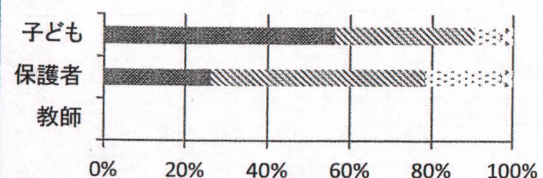
## 7. 先生や友達から認められている



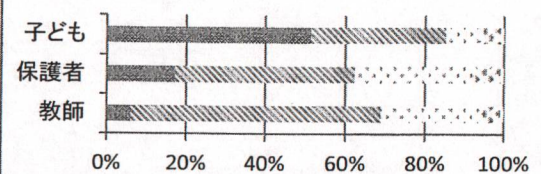
## 8. きまりや約束を守っている



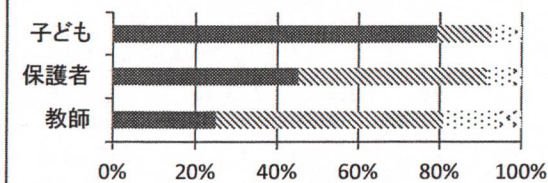
## 9. 規則正しい生活をしている



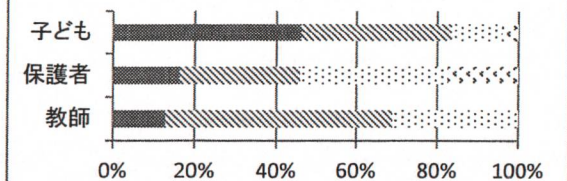
## 10. 困った時は教職員に相談している



## 11. 学級が楽しいと思っている



## 12. 読書の習慣がついている



### 【結果より】

- 「進んであいさつをしている」については、児童の自己評価が高いのですが、教師から見ると課題があります。「自分から」「元気よく」「目を見て」などにも気をつけてあいさつができるようになってほしいと思います。
- 「思いやりのある話し方ができている」については、児童は肯定的な意見が9割でしたが、教師は6割ほどでした。あらゆる場面で、ことばにこだわった人権教育を進めていきたいと思います。
- 「意欲的に学習している」については、保護者の方は8割近くが肯定的な意見でした。家庭学習は、時間を決めて集中して行うことが大切です。テレビを消して、集中して行う環境づくりをお願いします。
- 「授業を理解している」については、児童はほとんどが肯定的な意見でしたが、教師から見ると課題が残るという見方をしています。現状に満足せず、さらに授業に集中したり、発表することを心がけたりして、積極的に授業に参加してほしいと思います。
- 「基礎学力がついている」についても同じことが言えます。まだまだ漢字や計算力などの基礎学力が定着していないと見ています。継続して基礎学力を付けていく必要があります。
- 「いじめや仲間はずれなく・・・」については、3者ともに9割前後が肯定的な意見でした。しかし、一人でも悲しい思いをしている児童がいれば見逃すわけにはいきません。学校でも家庭でも、いじめの予防、いじめの早期発見を連携して行っていきたいと思います。
- 「先生や友だちから認められている」については、肯定的な意見が多かったですが、自己有用感をもてる児童がさらに増えるように、いろいろな場面で活躍できるようにしていきたいと思います。
- 「きまりや約束を守っている」については、教師から児童の学校生活を見ると、肯定的な意見は7割ほどです。「ろうかを走らない」や「不要な物を持ってこない」「授業中の学習の約束」など、まだまだ徹底していかなければいけないと思います。
- 「規則正しい生活（早寝早起きなど）」は、保護者の方からはもっと守ってほしいと思われるのだと思います。
- 「困ったときは教職員に相談している」では、保護者の方から見ると、相談できているのか不安感があるのだと思います。学校・家庭の連携をさらに密にして、相談しやすい環境づくりに努めなければいけないと考えています。
- 「学校が楽しいと思っている」では、児童の9割が肯定的な意見でした。残りの1割の児童が楽しくなるような学校教育を考えていく必要があります。
- 「読書の習慣がついている」では、保護者の方は肯定的な意見が半分以下でした。家庭で読書する時間が少なかったり、読書以外の余暇の過ごし方が多かったりしているのではないのでしょうか。興味のある本を落ち着いた雰囲気の中で読めるといいと思います。

今回は児童・保護者・教師の3者のデータの割合を比較しました。母数が違うので安直に比較はできないかもしれませんが、大まかな意識の傾向は読み取れます。この結果を参考にして、来年度も学校教育・家庭教育ともに推進していくことができるようにしていきたいです。1年間ありがとうございました。